

VI

調査のまとめ

VI. 調査のまとめ

1. 今後の課題

(1) 今後の進め方

今年度は「埼玉県東南部地域5市1町緑と農の地域資源活用検討会」の組成2年目となり、昨年度の調査成果を踏まえ、実証調査を進展させた

今後はこの検討会をベースに、5市1町の広域連携の中では途に就いたばかりの、緑と農の地域資源活用分野での連携推進を進めることが求められる。

● 広域連携手法の実装化

昨年度の基礎的調査、本年度の実証調査の成果を踏まえ、5市1町の緑と農の地域資源活用分野での広域連携の手法の実装化を図るべく検討を進める。

● 保全・活用計画の進展

昨年度の基礎的調査成果をもとに本年度実施した緑と農の地域資源保全・活用実証調査に関して、単なる試行に終わらない様に、本年度のモデル事業の成果や課題を踏まえ、更なる保全・活用計画の検討及び実施を進める。

● 検討会の継続・成長

「埼玉県東南部地域5市1町緑と農の地域資源活用検討会」の継続を図り、更なる協働や連携の実効性を発揮できる様に、組織体の成長を進める段階にある。

その為には、現在の環境政策担当課による委員構成に加え、適宜必要に応じ公園緑地、農業政策、河川管理、教育委員会、観光政策等の担当課も招聘を図り、連携する事が望まれる。

また、必要に応じて本圏域に多くの団地を抱え、豊富な団地内緑環境を保有するUR都市機構などの関係関連機関との連携も望まれる。

(2) 今後の課題

今年度の調査では、取組-1により「昨年度調査成果の更新」を図った。また、取組-2、取組-3において、昨年度に仮説的に立案した「モデル地区の選定と保全・活用計画案」をベースに、「本圏域における緑と農の地域資源の保全・活用計画」及び、「本圏域における緑と農の地域資源の普及啓発計画」を検討し、その一部を試行の形で広域連携としての実証調査を行った。

今後は、これらの成果や課題点を活かし、「緑と農の地域資源の保全・活用」の更なる推進を図る計画検討を行うと共に、本圏域における広域連携の深度化を進展させる。

● 広域連携手法の実装化

本年度の検討し試行を図った、広域連携の為の汎用的システムである「共同利用手法」、「汎用型ガイドライン手法」に関し精査を図る。

今後は、本年度の試行の成果や課題点を活かし、実効性の高い広域連携手法の実装化を検討する段階にある。

また、5市1町で共通的に活用できる、汎用型の指針やガイドラインなどのツール開発を進める。

● 関係・関連団体との協働

本年度の検討し試行を実施した教育機関と連携した普及啓発活動の、更なる展開を図る事が求められる。

大学以外にも、様々な関係・関連教育機関との協働連携を模索する。

また、本圏域に豊富な団地内緑環境を保有するUR都市機構などの関係関連機関との連携も検討する。

● モデル計画・モデル事業の推進

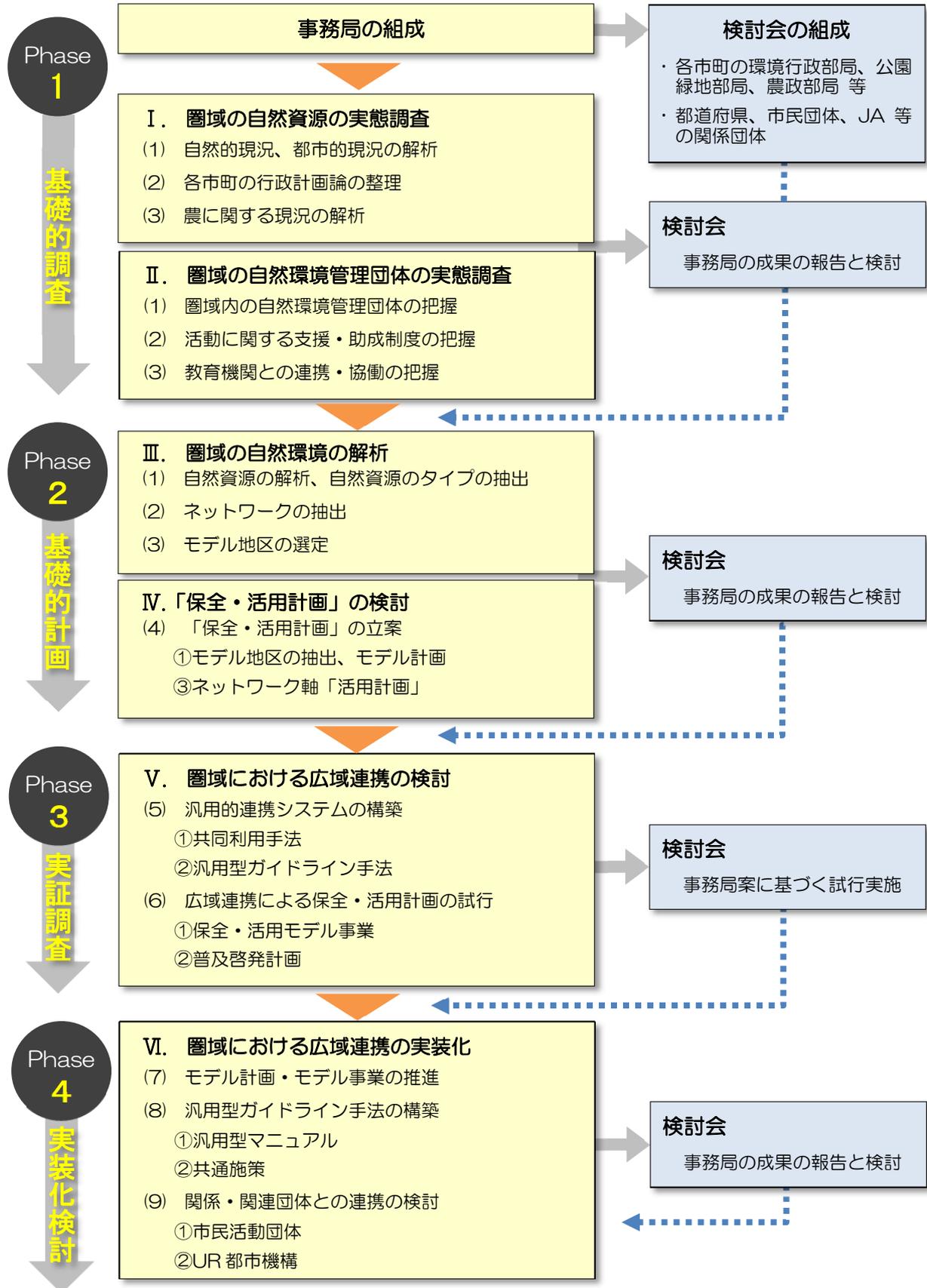
本年度選定されたモデル地区での、保全・活用計画の実施に向けた5市1町の連携・協働の推進が求められる。

また、モデル地区の選定システムを発展・継承及し、将来的にはそのシステムの制度化を図り、対象地区の更新や増設を検討する事が望まれる。

また、モデル計画については、継続的に精査・検討を深め、各市町の行政計画への反映や施策化に結び付ける事が求められる。

2. 広域連携における汎用的手法の検討

(1) 自然資源活用のための広域連携の推進フロー



図VI-1 自然資源活用のための広域連携の推進フロー
 VI-3

